

SYLLABUS (前期)

授業科目	ビジネスマナーⅠ		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			
実務経験内容								
教育目標	マナー及び一般常識について教育し、社会人としてのマナーを習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	自己紹介・作文・面接		個人の状況把握・自己紹介のポイント・「私の抱負」・学科選択の動機、目標の設定・自己表現力の向上					
2	豊かな仕事生活・人間関係		豊かな仕事生活・将来の自分・仕事への取り組み方・仕事には責任が伴う・人間関係・チームワーク・コミュニケーション・上司、先輩、同僚・プラス思考					
3	会社のルールと勤務条件 就業中のマナーⅠ		就業規則・勤務条件と労働法・給料の支払い形態・入社から退社までの基本ルール・執務中の態度、行動					
4	仕事に対する基本姿勢 就業中マナーⅡ		組織人としての重要な心構え・顧客意識・品質意識・納期意識・強調意識・目標意識・改善意識・コスト意識・時間意識・効率化、合理化・変化への対応・挨拶、お辞儀、言葉・健康維持の基本的習慣					
5	仕事への取り組み 服装と身だしなみ		仕事は正確、計画的に・仕事は計画表に従って・仕事のマニュアル化・手帳・効率的な処理・身辺整理法・身だしなみの基本・ビジネスウエアーの基本					
6	指示、報告と連絡、相談 話し方の基本		上司からの指示・報告・中間報告と連絡・相談・指示が重なった時の対応・印象の良い話し方・上手な話、下手な話・話し方の基本姿勢・ポイント・感じの良い言葉づかい					
7	ビジネス文書の基本 言葉づかい		ビジネス文書・ビジネス文書作成のポイント・ふさわしい言葉・気を付けたい言葉・尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い分け					
8	社内文書の種類と役割 自己紹介と簡単なスピーチ		社内文書の特色と役割・日常勤務の届・伝達文書・各種報告書・伺い・種類別書き方のポイント・自己紹介のしかた・スピーチは準備を					
9	社外文書の種類と役割 話しの聞き方と命令指示の受け方		社交、儀礼文書・業務、取引文書・形式・頭語、結語・時候の挨拶・前文、末文・封筒、便箋の書き方・聞くポイント・命令指示の受け方・忠告の受け方・肯定的表現					
10	表とグラフ 電話対応		表とグラフの役割・表の特徴、形式、作成・表の読み方・表と計数処理・各種グラフの書き方、見方・電話会話の特徴・受け方、取次ぎ、かけ方					
11	社会常識を高める情報収集 来客対応、就職活動		情報収集・雑誌、DBの利用・新聞・紙面構成・新聞の読み方・言葉づかい・誠意を持った対応・礼儀正しく・就職活動準備					
12	会社の仕組みと組織 名刺交換と面談の基本マナー		会社の特徴・法人企業・会社の社会的意義・分業・ラインとスタッフ・自分の役割・組織の一員としての自覚・名刺交換のしかた・面談の基本マナー・紹介のしかた					
13	社会保険と税金 冠婚葬祭のマナー		社会保険・健康保険、雇用保険、労災保険・国民年金、厚生年金・税金・所得税、住民税・生活設計と保険・慶弔・					
14	総括		上記1～13までのまとめ					
15	期末テスト		一般常識、SPI試験					
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教科書		就職活動 実践!ワークブック						

SYLLABUS (前期)

授業科目	一般構造		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	各建築物の基礎工事から仕上げまでを理解させ建築物の設計能力を養う。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築構造の変遷		我が国及び諸外国における、建築構造形式の歴史を説明し理解させる。 特にこれは、それぞれの国の気候や風土に密接な関係があることを説明し理解させる。					
2	建築構造の計画		建築物の骨組に影響を与える力には、どのようなものがあるのかを、説明し理解させる。 それによって、各構造形式における構造計画の進め方を理解させる。					
3	建築の法規と規格		建築物に使用される材料には、生産の合理化などを目的として、材料別に規格されていることを説明する。また、建築物には、どのような法律が適用されているのか、理解させる。					
4	木構造の構造形式		現在、建てられている木造の建築物には、どのような構造形式のものが、あるのか説明し、それぞれの構造形式の特徴（長所、短所）について理解させる。					
5	建築用の木材		樹木の分類のしかたと、建築材としてよく使用される樹木にはどのようなものがあるのか、それぞれの樹木の特徴について説明し理解させる。					
6	建築用の木材		木材の成長と性質について、また、木質材料の種類とそれぞれの特徴について、説明し理解させる。					
7	地業と基礎		各構造に適した基礎の種類と、各地盤に適した地業の種類について、それぞれの特徴を説明し理解させる。					
8	木材の接合		木構造には、接合部分において、様々な継ぎ手と仕口と呼ばれるものがあり、それぞれの用途箇所と形状について図を用いて説明し理解させる。					
9	軸組		軸組には、様々なものがあり、主なものとして土台、火打ち土台、柱、梁、桁、筋交い、方ずえ、等についての役割と用途について説明し理解させる。					
10	小屋組		和小屋と洋小屋の特徴及びそれぞれの、構造と各部材名称について、説明し理解させる。					
11	床組と階段		束をたてる床組と束のない床組との違いを図で説明し、各名称について理解させる。 また、階段についても、その種類と各名称について説明し理解させる。					
12	仕上計画と開口部		建築物の部位別性能と断熱化、遮音化についての各使用される材料の特徴等について、また、開口部の種類とその名称について説明し理解させる。					
13	外部仕上げ・内部仕上げ		屋根材の種類と屋根形状、勾配との関係について、また、外壁の種類と防火性能、耐久性能、床材、天井材、内壁材、床の間、押入れ等について説明し理解させる。					
14	木造枠組壁工法		従来の軸組工法に対して、近年、着工件数の増加をたどっている 通称2×4工法についての、軸組に対しての構造的違いと、長所と短所を比較させながら、説明し理解させる。					
15	木造枠組壁工法		従来の軸組工法に対して、近年、着工件数の増加をたどっている 通称2×4工法についての、軸組に対しての構造的違いと、長所と短所を比較させながら、説明し理解させる。					
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教科書		図説やさしい建築一般構造						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築計画		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物の用途に応じた設計条件や法令との関係などを理解し、適切で合理的な設計のあり方について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築計画の基本知識（1）		建築で使用される長さ及び面積の単位、建築に関わる寸法の種類、動作空間と単位空間、人体寸法、動作寸法、高さと奥行に関わる寸法について説明する。					
2	建築計画の基本知識（2）		モジュールとモデューラーコーディネーション、グルーピングとゾーニング、動線計画などについて説明し、その後演習問題を行う。					
3	各部および単位空間の計画（1）		開口部（扉、窓）、屋根、階段、廊下など、建築物の部位ごとの計画上の要点について説明する。					
4	各部および単位空間の計画（2）		便所、浴室、就寝空間、食事空間、収納空間、学習空間などの単位空間について、寸法計画を中心とした計画上の要点について説明し、その後演習問題を行う。					
5	独立住宅の計画（1）		独立住宅における平面計画と配置計画の原則、独立住宅の諸室（居間、食事室、台所、夫婦寝室、子供室、浴室等）の計画について説明する。					
6	独立住宅の計画（2）		独立住宅の平面形式（中廊下型、ワンルーム型、コートハウス型、コア型等）独立住宅の事例（スカイハウス、住吉の長屋等）について説明する。					
7	独立住宅の計画（3）		独立住宅の工法について説明し、その後演習問題を行う。					
8	集合住宅の計画（1）		集合住宅の様々なタイプの特徴およびその長所・短所、コーポラティブハウスやコレクティブハウスなどを含む近年の潮流について説明する。					
9	集合住宅の計画（2）		主要な集合住宅作品（同潤会江戸川アパート、六甲の集合住宅等）について、その概要と計画上の要点、集団住宅地の計画の概要について説明する。					
10	小学校の計画（1）		小学校の構成、小学校の授業運営方式（総合教室型、特別教室型、教科教室型等）小学校に関する計画上の要点、実例分析、計画に関する留意事項について説明する。					
11	小学校の計画（2）		中学校・高等学校の計画上の要点について説明し、その後演習問題を行う。					
12	幼稚園・保育所の計画		幼稚園・保育所における主要諸室とその機能的つながり、保育形態（一斉保育、自由保育）、幼児や乳児の人体スケールに配慮した各部の計画について説明する。					
13	図書館の計画		一般的な地域図書館における必要諸室とそのゾーニングおよび機能的つながり、図書館に関する基本用語、閲覧室の座席レイアウトおよび書架の配置と収容能力について説明する。					
14	美術館の計画		一般的な美術館における必要諸室とそのゾーニングおよび機能的つながり、美術館に関する基本用語、来館者の巡回形式、展示室の採光・照明計画について説明する。					
15	総合演習問題		1～14回までに関する総合能力の達成度の確認及び補足のための演習問題を行う。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		図説やさしい建築計画						

SYLLABUS (前期)

授業科目	構造力学Ⅰ		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築基準法及び関連規則について、法の基本理念を理解するとともに各規定について具体的に習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	構造力学に必要な計算		分数、平方根、連立方程式、文字を含んだ式、相似形、面積計算等について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
2	力の基礎		力の表現とその符号、及び力の効果とその単位について、説明し演習問題を用いて理解を深める。					
3	力の基礎		力のモーメントについて説明し、その符号、及びモーメントの距離の見極め方を演習問題を用いて理解を深める。					
4	力の基礎		合力とは何かを説明し、一点に作用する力の合力と平行に並ぶ力の合力について演習問題を用いて理解を深める。					
5	力の基礎		分布荷重とは何かを説明し、その荷重の合力について演習問題を用いて理解を深める。					
6	力の釣り合い		力の釣り合いとは何かを説明し、回転を伴う力の釣り合いについて演習問題を用いて理解を深める。					
7	反 力		構造物の支え方、及び反力とは何かを説明し、集中荷重が働く場合の反力について演習問題を用いて理解を深める。					
8	反 力		分布荷重の働く場合とモーメント荷重の働く場合について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
9	反 力		張り出し梁の反力について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
10	反 力		ラーメンについて説明し、水平方向に力が働く場、合及び鉛直方向に力が働く場合の反力について演習問題を用いて理解を深める。					
11	部材に生じる力（応力）		部材に生じる力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力）について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
12	部材に生じる力（応力）		単純梁に生じる力（集中荷重、分布荷重、モーメント荷重）について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
13	部材に生じる力（応力）		片持ち梁に生じる力（集中荷重、分布荷重）について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
14	部材に生じる力（応力図）		軸方向力図、せん断力図、曲げモーメント図の描き方について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
15	部材に生じる力（応力図）		軸方向力図、せん断力図、曲げモーメント図の描き方について説明し、演習問題を用いて理解を深める。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		図説やさしい構造力学、基礎から学ぶ建築構造設計 基本式の理解と活用、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築法規Ⅰ		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築基準法及び関連規則について、法の基本理念を理解し、各規定について具体的に習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築基準法の基礎知識		法令集の準備、法令の構成、法令用語の読み方等について説明する。					
2	基本定義		法の目的、建築物・特殊建築物・建築設備・居室・主要構造物等々の用語の定義について説明する。					
3	確認申請等（1）		確認申請を必要とする建築物、用途変更による確認申請、確認申請の流れ、確認申請に要する日数等について説明する。					
4	確認申請等（2）		中間検査・完了検査、建築主事と特定行政庁、指定確認検査機関について説明する。その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。					
5	敷地・面積・高さ		建築物の敷地、建築面積、床面積、延べ面積、建築物の高さ、建築物の階等について説明する。					
6	採光・換気		居室の採光、有効採光面積、居室換気の目的、換気の種類、アスベスト規制、シックハウスについて説明する。その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。					
7	構造に関する基準		居室の天井高さ、居室の床高さ、地階の住宅等の居室、長屋・共同住宅の各戸の界壁、階段、階段に代わる傾斜路について説明する。					
8	設備に関する基準		便所、給水設備、排水設備、電気設備、避雷設備、昇降路設備について説明する。					
9	道路		建築基準法上の道路の定義、2項道路、道路幅員と道路敷の幅、接道、道路内に建築又は築造してはならないもの、道路内に建築できる特例等について説明する。					
10	用途地域による建築制限		用途地域の種類、敷地が異なる用途地域にわたる場合、建築物の用途制限、大規模集客施設等について説明する。その後演習問題を行い、理解力の確認、及び理解力を深める。					
11	容積率		容積率の算定方法、・規制、延べ面積の緩和や壁面線の指定による算定方法、特定道路による緩和措置等について説明する。					
12	建蔽率		建蔽率の算定方法、建蔽率の限度・緩和措置、制限の異なる2以上の地域にわたる場合について説明する。その後演習問題を行い、理解力の確認及び理解力を深める。					
13	斜線制限		高さ制限、道路斜線制限と適用距離、隣地斜線制限、北側斜線制限、斜線制限の緩和措置等について説明する。					
14	天空率・日影規制		天空率の算定方法、天空率による斜線制限の緩和措置、日影規制の対象地域と規制値、日影が制限の異なる区域にわたる場合等について説明する。					
15	総合演習問題		1～14回までに關する総合能力の達成度の確認及び補足のための演習問題を行う。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		図説やさしい建築法規、建築関係法令集 法令編 S、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築施工Ⅰ		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	設計図に基づき、建築物を完成させる各過程を理解し、各種手続き、各種の工事について理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	施工計画について		契約図書の構成、設計図書の優先順位、仕様書の一般記載事項、基本工程表総合施工計画書について説明し理解させる。					
2	施工計画について		バーチャート工程表とネットワーク工程表の計算方法について説明し、理解させる。					
3	管理計画について		工事管理と工事監理の業務の違い、及び材料管理と安全管理について説明し理解させる。					
4	管理計画について		各種申請、届出、及び廃棄物の種類と処理方法、リサイクル法、建設リサイクル法について説明し理解させる。					
5	仮設工事について		仮設工事の分類（共通仮設と直接仮設）および足場の種類とそれぞれの基準について説明し理解させる。					
6	仮設工事について		登り栈橋、作業床、投下設備、帆布養生、防護棚その他の仮設工事について説明し理解させる。					
7	地盤、土工事、基礎について		地盤調査の種類（ボーリング、サウンディング、標準貫入試験、ベーン試験等）について説明し理解させる。					
8	地盤、土工事、基礎について		排水の工法（かま場工法、ウェルポイント工法、ディープウェル工法）について説明し理解させる。					
9	地盤、土工事、基礎について		山留工法の種類（法付けオープンカット工法、地盤アンカー工法、親杭横矢板工法、シートパイル工法、ソイルセメント山留め壁工法等）について説明し理解させる。					
10	地盤、土工事、基礎について		各地業工事（地肌地業、砂利地業、捨てコンクリート地業、杭地形業）及び基礎工事の種類について説明し理解させる。					
11	防水工事について		アスファルト防水、シート防水、改質アスファルトシート防水、塗膜防水、及びシーリング工事について説明し理解させる。					
12	タイル工事について		工法の種類（密着張り、改良積み上げ張り、改良圧着張り）それぞれの特徴について説明し理解させる。					
13	塗装工事について		各種、塗料の種類の特徴と適応素地について説明し理解させる。					
14	建具、ガラス工事について		建具の種類（木製建具、樹脂製建具、アルミ製建具、鋼製建具）それぞれの特徴について説明し理解させる。					
15	左官工事について		材料、及びセメントモルタル塗り、せっこうプラスター塗り、セルフレベリング材塗り、漆喰塗りについて、それぞれの特徴について説明し理解させる。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		建築施工テキスト、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築基礎		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築に必要な数学を理解させ、構造設計の計算能力を高める。また、C A Dの基本的事項について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	数について		数、自然数、分数、無理数、数の体系について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
2	数の性質と計算について		偶数と奇数、約数と倍数、素数、素因数、公約数、公倍数、10進法、60進法、12進法について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
3	数の性質と計算について		正の数、負の数、絶対値、四則算、近似値、有効数字について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
4	式とその計算について		文字式と文字の用い方、台数式、指数法則について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
5	一元一次方程式について		等式及び一元一次方程式の解法について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
6	連立方程式について		連立方程式の種類及び解き方について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
7	連立方程式 について		連立方程式の解法の種類と適用の方法及び代入法、加減法について説明し理解を深める。					
8	平方と平方根について		平方、平方根及び開平の解き方、平方根の符号及び平方根の四則算について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
9	グラフと関数について		座標、関数、比例について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
10	グラフと関数について		一次関数とグラフ、二次関数とグラフ、三次関数とグラフについて説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
11	図形、面積、体積について		図形の基本、面積、体積の計算法、図形の重心について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
12	合同と相似について		三角形の合同条件及び相似について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
13	合同と相似について		対比、相似比、相似条件、及び三角形の相似条件について説明し、確認計算問題を解かせ理解を深める。					
14	三平方の定理について		三平方の定理の証明について説明し、確認計算問題を解かせ、理解を深める。					
15	運動方程式について		運動方程式、質量と重さ、速度、加速度、重力加速度等について説明し、理解を深める。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		図説やさしい建築数学、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築史		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして内装に関する実務経験を有す。							
教育目標	日本と西洋の建築の変遷と相違点を認識し、各時代の遺構から建築様式、構造、構法を学び現代建築への発達過程を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	西洋建築史	1－古代	古代エジプトの建築様式についてと古代ギリシア建築の特徴					
2	古代		古代ギリシアとローマ建築の比較と重要事項の学習					
3	2－中世		キリスト教空間の出現と建築構造の発達：初期キリスト教建築・ドーム、バシリカ					
4	ロマネスク		ビザンティン建築とイスラム建築、ロマネスク建築への移行について					
5	ゴシック		ゴシック建築の特徴と中世の世俗建築 【振り返りと演習問題】					
6	3－近世建築史		ルネサンス建築の特徴と、その時代背景についての学習					
7	ルネサンス		ルネサンス建築とヨーロッパの文化 芸術とのつながりと建築物の発展について					
8	バロック		バロック建築の特徴とその時代背景、後のロココ様式への変化について考察する					
9	新古典主義建築		新古典主義の建築の特徴と折衷主義建築について 【振り返りと演習問題】					
10	4－近代建築史		初期近代建築：変化する時代から現れた建築様式と新材料の建築 アーツ&クラフツ運動の影響について					
11	アールヌーボー		アールヌーヴォー様式の特徴と展開 アメリカ建築の近代化のうごきについて					
12	近代建築運動		新しい時代に向かう代表的な建築運動についての考察					
13	モダニズム建築の完成		現代の様々なデザインの基ともなる バウハウスでの建築教育と グロピウス、 ライト、ル・コルビュジェ、ミースらの建築					
14	近代建築の成熟と変容		アールデコ様式の建築とスカイスクレーパーについて					
15	近代から現代へ		第2次世界大戦後の建築とポストモダニズム 振り返りと演習問題】					
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教書		コンパクト版 建築史（日本・西洋）						

SYLLABUS (前期)

授業科目	福祉住環境		年次	1 年	前後期	前期	単位	2
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして内装に関する実務経験を有す。							
教育目標	高齢者や障害者にとって安全で住みやすい住環境や住宅設備、並びに福祉用具について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	暮らしやすい生活環境とは①		日本の現状を学習する。少子高齢社会の現状と社会全体の取り組みの必要性。					
2	暮らしやすい生活環境とは②		日本の住環境の問題点と家庭内での事故について。					
3	暮らしやすい生活環境とは③		介護保険制度の概要と今後の課題					
4	暮らしやすい生活環境とは④		障害者総合支援法の仕組みとケアマネジメント。					
5	健康と自立 ①		高齢期の健康度と老化のとりえ方、自立して暮らせるための工夫について。					
6	健康と自立 ②		障害者の自立した生活への対策方法。運動障害・視覚障害・聴覚障害・内部障害についての学習。					
7	健康と自立 ③		年齢・障害によって変わる体と心の理解と対応の学習。ADL・QOLについて。					
8	バリアフリーとユニバーサルデザイン ①		バリアフリーとユニバーサルデザインの違いについて知るとともに、生活上のバリアについて考える。					
9	バリアフリーとユニバーサルデザイン ②		共用品と福祉用具についての学習。					
10	バリアフリーとユニバーサルデザイン ③		多用される福祉用具について、その役割と活用法を考える。					
11	安全・安心・快適な住まい ①		住まい整備の基本事項について基礎知識の学習。					
12	安全・安心・快適な住まい ②		生活行為別の住まいの工夫について、様々な事例学習。					
13	安全・安心・快適な住まい ③		住まい整備の具体例についてのまとめと復習。					
14	安心できる住生活 ①		ライフスタイルの多様化と住環境整備のノウハウ、グループリビング・コレクティブハウジングなど暮らし方の違いについて学ぶ。					
15	安心できる住生活 ②		住宅改築の実例をもとに、検討案を学習し、身体状況に合わせた様々な建築的対応策について考える。					
1 回配当時間		2 時間	1 コマ					
使用教科書		福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト、 ユーキャンの福祉住環境コーディネーター 3級速習テキスト&問題集						

SYLLABUS (前期)

授業科目	インテリアデザイン		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして内装に関する実務経験を有す。							
教育目標	インテリアコーディネーター試験の基礎知識「インテリア商品と販売」「インテリア計画と技術」を学び資格取得の資とする。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	インテリアデザイン・インテリアコーディネーターとは		インテリアデザインで求められること・デザイン上での注意点など、クライアント対応も含めて考察する。過去問題集の効果的な使い方について。					
2	平面計画 1		人間工学についての基礎学習と 寸法計画について学習する。【該当 過去問：上3】					
3	平面計画 2		住宅の種類と形式について。					
4	平面計画 3		L・D・Kほか、各部屋の計画と寸法の検討。					
5	色彩 1		光と色の関係、マンセルの表色系を主とした色彩体系の学習。【該当 過去問：上4】					
6	色彩 2		色の効果についての学習と、色彩計画の概要。					
7	照明		照明器具の種類と照明計画の基本。【該当 過去問：下12】					
8	家具 1		家具の分類とその機能について。【該当 過去問：上5】					
9	家具 2		主な家具の材料についての学習。					
10	家具 3		様々な家具仕上げについての検討。西洋の歴史との関連。【該当 過去問：上2】					
11	寝装・寝具		睡眠環境の考察と、ベッドの構造。					
12	ファブリックス		室内で使用される布の基本構成についての学習。【該当 過去問：上6】					
13	ウィンド トリートメント1		カーテンの機能と用途・特徴、スタイルの違いについて学習する。					
14	ウィンド トリートメント2		シェード類の機能と特徴、空間におけるデザイン演出について。【該当 過去問：上6】					
15	インテリアアクセサリ		テーブルウェアとテーブルコーディネートの基本学習。 陶磁器についての初歩的知識を得る。【該当 過去問：上7】					
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教科書		インテリアコーディネーター 合格テキスト、インテリアコーディネーター1次試験過去問題徹底研究 上巻下巻						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築設計製図Ⅰ		年次	1 年	前後期	通年	単位	8
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として個人住宅、公共建築などの設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築技術者として必要な、建築物の用途・構造に応じた計画の立案力、設計図面の作成要領等を習熟させ、テーマに沿った自由設計を完成させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	線の練習 1		線種を分けて描く→太線、中線、細線(合計 縦300本 横250本)					
2	線の練習 2		線種を分けて描く→破線、一点鎖線、二点鎖線(合計 縦300本 横250本)					
3	平面図 1		木造平面図トレース及び手順の習得。 柱・壁の中心線下書き→柱・壁の下書き→柱・壁の仕上げを描く					
4	平面図 2		木造平面図トレース及び手順の習得。 開口部の仕上げ→設備機器・家具を描く→寸法線他表示及び寸法					
5	断面図		木造断面図トレース及び手順の習得。 柱芯・高さ基準線の下書き→切断面の下書き→切断面の仕上げ→見掛け部分を描く→寸法線他表示及び寸法					
6	立面図(南・西)		木造立面図トレース及び手順の習得。 柱芯・高さ基準線の下書き→屋根・外壁・開口部の下書き→前項の仕上げ→テラス・ポーチ・濡れ縁を描く					
7	立面図(北・東)		木造立面図トレース及び手順の習得。 柱芯・高さ基準線の下書き→屋根・外壁・開口部の下書き→前項の仕上げ→テラス・ポーチ・濡れ縁を描く					
8	矩計図 1		矩計図トレース及び手順の習得。 柱芯・高さ基準線の下書き→切断面の下書きを描く					
9	矩計図 2		木造矩計図トレース及び手順の習得。 各部材断面の仕上げ→見掛け部分・細部を描く→寸法線他表示及び寸法					
10	天井伏図		木造天井伏図トレース及び手順の習得。柱・壁中心線の下書き→柱・壁の下書き→壁の仕上げ→廻り縁・天井仕上げ材を描く→寸法線他表示及び寸法					
11	基礎伏図		木造基礎伏図トレース及び手順の習得。 壁中心線の下書き→壁の下書き→布基礎立ち上がり仕上げ→床下換気口・アンカーボルトを描く→寸法線他表示及び寸法。					
12	床伏図		木造床伏図トレース及び手順の習得。 壁・柱の中心線下書き→柱・土台の下書き→柱・土台の仕上げ→大引き・根太・根太掛けを描く→寸法線他表示及び寸法					
13	梁伏図		木造梁伏図のトレース及び手順の習得。 柱・壁の中心線→2階壁の仕上げ→1階壁の仕上げ→2階・1階の柱→不足分の梁を描く→火打ち材他表示・寸法線及び寸法					
14	小屋伏図		木造小屋伏図のトレース及び手順の習得。 柱・壁の中心線の下書き→軒桁・妻梁・小屋梁の仕上げ→棟木・母屋・垂木・火打ち材を描く→寸法線他表示及び寸法					
15	軸組図		木造軸組図のトレース及び手順の習得。 柱の中心線・高さ基準線の下書き→柱・土台・軒桁・胴差の仕上げ→窓台・まぐさ・間柱を描く→寸法線他表示及び寸法					
1 回配当時間		8 時間	4 コマ					
使用教科書		名作住宅で学ぶ建築製図、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築C A D実習 I	年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として個人邸を中心とした設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	C A D製図法を学び、各種建築図面を反復練習して作図能力を高める。						
成績評価の方法・基準	成績は1 0 0点満点とし、6 0点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：1 0 0点～8 0点）、良（B：7 9点～7 0点）、可（6 9点～6 0点）、不可（D：6 0点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	W i n d o w sの基礎 J w C A Dの基礎（Ⅰ）	実習室での注意、パソコン取り扱いの注意、C A D資格について様々な方法で線分を引けるようにする 画面操作の習得、スナップモードの習得、ファイルの保存					
2	J w C A Dの基礎（Ⅱ）	作図コマンド（矩形、円、円弧、2線）の習得 スナップモードとの組み合わせ					
3	J w C A Dの基礎（Ⅲ）	線の編集コマンド （部分消去、コーナー処理、複線、伸縮、分割）の習得					
4	J w C A Dの基礎（Ⅳ）	選択方法の使い分け （要素選択、範囲選択、除外）要素の削除					
5	J w C A Dの基礎（Ⅴ）	図形の編集コマンド （複写、移動、反転、回転、拡大、縮小、パラメトリック）の習得					
6	J w C A Dの基礎（Ⅵ）	文字入力、寸法線の記入方法、要素測定の習得					
7	J w C A Dの基礎（Ⅶ）	属性、尺度、用紙についてC A D特有の考え方を習得					
8	J w C A Dの基礎（Ⅷ）	用紙枠の作成 （用紙、尺度、矩形、文字記入、線属性の設定、図形登録）					
9	J w C A Dの基礎（Ⅸ）	簡単な作図 （用紙設定→枠を置く→作図→寸法記入→保存→印刷）					
1 0	木造図面（配置図）	木造2階建て住宅の配置図を作成 尺度とレイヤグループ、基準線と補助線の使い分け					
1 1	木造図面 （1階平面図（Ⅰ））	木造2階建て住宅の1階平面図を作成 基準線、補助線、柱配置、大壁と真壁の描き方					
1 2	木造図面 （1階平面図（Ⅱ））	木造2階建て住宅の1階平面図を作成 建具コマンドの使い方、サッシュ・ドア・木製建具の記入					
1 3	木造図面 （1階平面図（Ⅲ））	木造2階建て住宅の1階平面図を作成 設備・家具の記入、寸法記入、文字記入					
1 4	木造図面 （2階平面図）	1階平面図を利用して2階平面図を作成 ファイル保存の注意、既存図面の活用、レイヤ使い分け					
1 5	木造図面まとめ	やり残した課題を仕上げ、印刷をしてまとめ C A D作図の技術的な問題点を残さないよう復習					
1 回配当時間	4 時間	2 コマ					
使用教科書	建築CAD検定試験公式ガイドブック、建築CAD検定試験問題集、ドリルで学ぶJW-cad、実践ドリルで学ぶOffice活用術 演習問題 全173題						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築測量実習		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士、建築施工管理技士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築現場で必要な測量機器の操作、測量法等について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築測量実習概要		建築建築測量 実習心得、実習場の安全使用・注意事項説明 トランシット・レベル・平板測量等の概要					
2	測量機材取扱要領（概要）		目的、分類、測量学、各種測量機材の取扱要領（概要）					
3	平板測量 放射法		放射法による土地測量					
4	平板測量 交会法		前方・後方交会法による測量					
5	平板測量 オフセット法		オフセット法による測量 本線と支距					
6	平板測量 実技試験		平板測量の基本操作試験					
7	面積計算 その1 平板測量実技試験補備		面積計算・不定形面積、プランメーター 平板測量の未受験者試験					
8	レベル測量		レベルの種類・取扱要領 野帳の使用法					
9	高低測量 昇		堤防の断面形状調査 水平距離の計測・野帳記入					
10	高低測量 降		堤防の断面形状調査2回目 後視・前視					
11	建築現場用語 面積計算 その2		ミズ、カネ、スミなど建築現場で使用する用語説明 三角形定理					
12	レベル検査法		点検検査法 クイ打ち検査法					
13	レベル測量 実技試験		レベル機材の基本操作試験					
14	前期期末試験その1 レベル測量実技試験補備		前期建築測量試験1回目 レベル機材測量の未受験者試験					
15	前期期末試験その2		前期建築測量試験2回目 前期測量まとめ					
1回配当時間		4時間	2コマ					
使用教科書		First Stageシリーズ 測量入門、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS (前期)

授業科目	建築材料実験		年次	1 年	前後期	通年	単位	3
授業の種類	実験	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士、建築施工管理技士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築材料の物理的特性を実地検証し、適材を適所に使用方法を習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	各種建築物の構築作業概要		木造、鉄筋、鉄骨造の構築作業概要					
2	セメント比重測定 セメント凝結安定試験		実験の目的・要領 ルシャテリュエ比重ビン取扱、凝結時間測定、ビガー針取扱要領					
3	骨材ふるい分け試験		実験の目的・要領 コンクリート製造用骨材（砂・砂利）、モルタル・コンクリート					
4	セメント強度試験 セメントフロー試験		実験の目的・要領 試験用テストピース製作、日本標準砂、ポルトランドセメント特性					
5	セメント1週目強度試験		曲げ試験器・圧縮試験器の使用法 1週目強度測定					
6	セメント2週目強度試験 骨材吸水率測定準備		実験の目的・要領 2週目強度測定 骨材（石・レンガ・タイル等）吸水率測定準備					
7	骨材吸水率・比重測定		実験の目的・要領 2週目強度測定 骨材（石・レンガ・タイル等）吸水率・比重測定					
8	セメント4週目強度試験		セメント4週目強度試験、普通ポルトランドセメントの製造と硬化反応					
9	コンクリート調合設計準備		コンクリート・JASS5の調合設計、次回作業説明、型枠製作準備					
10	供試体製作 スランブ試験		コンクリート強度測定のテストピース作成、スランブ試験要領					
11	供試体脱型 1週目圧縮強度試験		テストピースの水中養生、1週目コンクリート圧縮強度測定					
12	2週目圧縮強度試験		2週目コンクリート圧縮強度測定、コンクリート工事用語					
13	各種コンクリート		軽量コンクリート・ALC・PCコンクリート等、jASS5解説					
14	前期期末試験その1		前期材料実験期末試験1 解答・説明					
15	2ヶ月（8W）目圧縮強度試験 前期レポート整理		2ヶ月（8W）目圧縮強度試験 前期レポート整理、試験補備					
1回配当時間		4時間	2コマ					
使用教科書		新課程版 建築実習1、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						